

② 何を遵守すべきか

1 コンプライアンスにおいて遵守すべきもの

- (1) 法令等に従い、誠実に職務を遂行することは我々の義務であり、守るべき範囲も明確です。
- (2) コンプライアンスとは、法令等の遵守だけにとどまらず、社会の常識、社会倫理等（社会のルール）から逸脱しないことも含む概念です。
- (3) 民間においては、「法令等違反」でなく「社会の常識、社会倫理等（社会のルール）から逸脱」すると、組織に大きなダメージを与えます。ここで事例を紹介します。

事例：某有名料亭における食べ残した料理の使いまわし

某有名料亭は、以前から客が食べ残した料理を使いまわして営業を行っていました。この結果、大きな批判と顧客離れを招き、倒産に至る大きな原因の一つとなりました。

本事例において、一体何が問題だったのでしょうか。

実は、この事例は食品衛生法などの法律には抵触していません。しかし、「有名料理店では安心して食べられる料理を提供すべき」、「対価に応じたサービスが当然受けられる」という、常識的に考えて、顧客から求められる信頼・期待を裏切ったと言えます。

- (4) では、防衛省・自衛隊ではどうでしょうか。

防衛省・自衛隊は、その任務と重要性から、組織そのものが無くなることはないでしょう。

しかし、自衛隊法第52条（服務の本旨）において、「もつて国民の負託にこたえることを期する」とあり、同第58条（品位を保つ義務）においても「隊員は、常に品位を重んじ、いやしくも隊員としての信用を傷つけ、又は自衛隊の威信を損するような行為をしてはならない」とあります。このことから、「社会の常識、社会倫理等（社会のルール）から逸脱」し、組織に大きなダメージを与える行為は、厳に慎まなければなりません。

② 何を遵守すべきか

2 「社会の常識、社会倫理等（社会のルール）」から逸脱しない方策

社会の常識、社会倫理等（社会のルール）から逸脱しないよう行動するためには、どうすればよいのでしょうか。

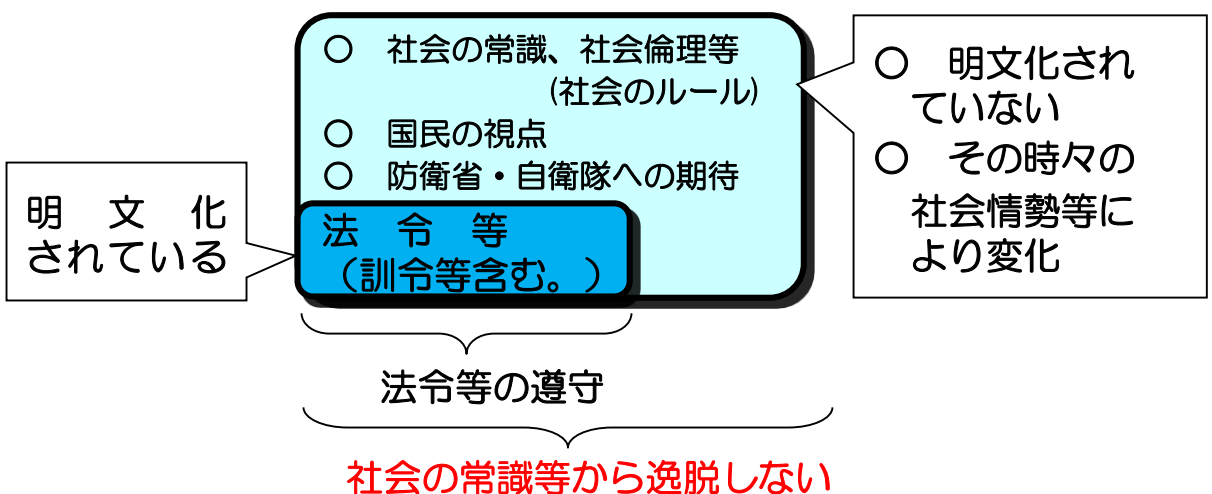
この点については、「国民の視点から、自分達に何が求められているのか」を考えると判断の助けになります。それは同時に具体的な行動の指針になる場合があります。

しかし、社会の常識、社会倫理等（社会のルール）は明文化された法令等と違い、一定のものではありません。その時々社会情勢によって、社会の関心事項や防衛省・自衛隊の役割は変化し、国民の視点や防衛省・自衛隊に寄せられる期待は変化します。

したがって、コンプライアンスを実践するには、自らの任務が国民から負託されたものであることをよく認識した上で、その時々社会情勢や、その中で自分に求められていることは何なのかということ、常にアンテナを高くして自覚し、自ら考えることが必要なのです。

本資料の表紙裏に掲載している「コンプライアンス・テスト」は、これを端的に表現したものです。

コンプライアンス・テストについては、「③3 コンプライアンス・テストの実践」（10ページ）で説明します。



② 何を遵守すべきか

3 社会の求めや社会の期待とは

不祥事を未然に防止し、防衛省・自衛隊に対する国民の信頼を維持・向上させ、国民の期待に応えるために、コンプライアンスを実践することは重要ですが、そのためには、社会の求めや期待の変化について敏感に感じ取ることが重要です。

事実、行政文書管理・情報公開、情報漏えい防止、ハラスメント防止、公共調達（入札談合防止）、公益通報者保護などの分野で社会の求めや期待が常に変化している中、それらに対応するための新たな規範が作られてきました。

近年、公的機関に対し、「透明性」、「公正性」、「国民への説明責任」が求められていますが、それは正に社会の求めや期待から生じてくるものです。

このため、防衛省・自衛隊においても、ふだんから国民の期待に応えるため、社会の求めや期待の変化について敏感に感じ取り、“すべきでないことをする”、“すべきことをしない”といった過ちを犯すことなく、“すべきでないことをしない”、“すべきことをする”よう努めるべきです。

「社会の求め」や「社会の期待」は常に変化します！

	する	しない
すべきでないこと	×	○
すべきこと	○	×

現実には常に変化する。

概念的には変化しない。

以前は問題視されなかったことでも、今では国民の信頼・期待を失うことになり得るため、常に自問自答して行動することが求められます。